

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201876		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホーム ジョイ村松		
所在地	静岡県静岡市清水区村松原1-7-16		
自己評価作成日	令和3年10月20日	評価結果市町村受理日	令和4年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&UjyosyoCd=2274201876-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月2回のイベントを重視し季節ごとに飾り付けを行ってます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「家族と会えなくて認知症の進行が…」「家族の顔を忘れてしまうのでは…」といった心配はありますが、事業所の中では「鯉を食べたい」「じゃあ鯉パーティーしよう」、「春だから桜パーティーで、桜えびのかき揚げたべよう」などとホームパーティーやイベントが毎月2回催され、賑わっています。また地域には介護相談もはいるほど存在を示せており、業務においても掃除改善に意欲的に取り組むほか、管理者とリーダー以外はパートタイマー職(1名常勤)なことから防災訓練を毎月おこなうといった具合で、現状に即した目標を掲げての実践が確実です。現在は介護の標準化(誰が担当しても変わらぬ介護)を目指し奮闘中です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい生活が送れるよう利用者様のペースに合わせて支援させて頂いています。	理念に基づいた「その人らしい安心した暮らし」へ向け、本人の考えを尊重しています。例えば事業所でも外部サービスを整えています。在宅の頃からの美容師や医師を継続してもらっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	かかりつけ医のある利用者様は通院し美容院も行きつけの所を利用している利用者様もいます	防災訓練では「サイレンが響くと思います。ご迷惑を～」と告知チラシをポストイングするなど、事業所から地域に積極的に関わっており、困り事相談も入ってくるようになっていきます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、交流はなしです		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、開催はしていませんが、議事録を作成しご家族様や自治会の方に配布しています	運営推進会議は2年近く書面開催となっているため、立ち話であっても自治会長並びに副会長、利用者家族との会話を大切にしています。便りを玄関に貼出して話材とする工夫もおこなっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自治会長さんや副会長さんとアポを取り何かあるときは連絡いただいています。	マスクや消毒液等コロナ対策材の供給を行政から受けるほか、メール配信では最新情報も届いています。空室の問い合わせは、満床だったので法人内のグループホームを紹介した事が2例あります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会をスタッフ会議の中で取り組み入り口の施錠は外すようにしています。玄関の施錠は防犯上閉めています。	カンファレンスでは事故報告を通じて現場における課題などを議題にするようになり、内容が濃くなっていると管理者は感じています。また所内勉強会ではスピーチロックについても学んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議内にて虐待は暴力だけでなく言葉の暴力もあること伝え虐待が起きないように話し合いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を確保できていないです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に意向等を確認しご家族様、利用者様が安心して生活できるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に様子を話したり、おたよりにて要望、意見を表せるようにしています。	特養も併せて申込みをしても「ここがいいね」となった人もいるほか、生家の産品を取り寄せ「皆で食べてください」と気遣ってくださる等、家族とは良好な関係を築いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて意見交換を行い反映するようにしています。	各々得意、不得意はあるも、毎月のスタッフ会議(2時間)を早めに切り上げ掃除タイムとしたところ、「だったら一斉にやろう」と奮起する職員の様子に、日々前進の手応えを管理者は感じています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	把握するようにはしていますが、まだ見れていないところもあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ランクアップ試験の促し、施設内での勉強会にてトレーニングを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、交流は中止しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を行い利用者様との信頼を築けるよう努めています。 状況に応じて家族の方と相談し要望を聞けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや改善など耳を傾け信頼を築けるようにしています。 利用者様の悩みなど、おたよりや電話にて把握して頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安全安楽に過ごせるよう話し合いを行い必要なサービス等の提供しています。(デイサービスの利用やベッド等について)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	上から目線にならないよう利用者様に寄り添えるよう心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	方針等、施設に任せていただいている利用者様が8名います。関係は良好だと思えます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙のやり取りや近所の方との面会、交流が途切れないようにしています。	例えば2月、3月だけでも誕生会、バレンタインデー、ひな祭り、鯉弁当パーティー、ホワイトデーと時節行事を重ね、村松農園では農家だった利用者を主役とすることもできています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	机の数を増やし孤立しないよう席替えを行うようにしています。 利用者様同士が居室内で談笑されたりTV見られているため良い関係だと思えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一名の方が退去され関係は途絶えています。 その前に退去された方はマスクを持ってきて下さったり関係を続けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族様から情報を頂き本人の意向に沿えるように努めています	「望みが叶えられることは実現していこう」と職員間で声を掛け合い、居室担当者が利用者やゆっくり話せる時間を設けており、テレビを観てこぼした言葉も拾い実現に向けて支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴の確認、利用者様の趣味などをご家族様や本人に確認し、好きなことを続けて頂くよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の体調や、体質等について疑問に思ったことは本人、利用者様の家族に相談し安心して暮らせるよう努めさせて頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議にて居室担当者、他スタッフとケアの方針について話し合いを行い介護計画作成する前に家族に相談させて頂いています。	法人内の介護支援専門員が週1回来所して現状把握する方法で「よい」と静岡市から許可を得て、モニタリングを反映した現場中心の作成に至っています。	(コロナが終息したら)2表の担当者欄には職員以外の人も加わることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ会議内にて時間を設け、利用者様の様子を確認、必ず個人記録に記入、申し送りにて情報共有するようにしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化が不十分です。 柔軟に対応ができるよう努力します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	資源の活用についての知識が乏しい 安全、豊かに暮らせるよう努めます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診7名 受診2名います。 往診の方は診療方法に変更があるときなどはDrから家族に連絡して頂いています。	訪問診療を7名が受け、2名は従来のかかりつけ医へと家族が通院介助をおこなっています。糖尿の気もあり、血圧が高い人にはバイタルとともに普段の様子を家族に伝えるようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の特変に早く気付けるようにし特変時はすぐにDrコールするようにし指示を仰ぐようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今回、入院された方は、いませんでした。病院の方と連携取ることもできなかったため、今後は相談できるよう関係づくりしていきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	1名の利用者様が重度化する可能性があるため急変時は家族と連絡をとり今後の方針をドクター含め話し合いを行っています。利用者様も施設にて看取ってほしいと意向を確認しています。	血液検査の結果が悪かったりすると医師が家族に直接電話を入れてくださるので、助かっています。「ターミナルかも…」を何度か繰り返してもユーモアある会話ができている利用者もいて、暮らし慣れた此処で看取ることの大切さを痛感しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成、施設長による24時間対応 11/28に救命講習を施設にて行っていただくよう依頼済みです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、今回は11/2に消防隊立ち合いのもと訓練、指導を受けるようにしています。地域の方との協力体制は不十分ですので今後見直しをします	併設デイとの合同訓練では、デイの職員が利用者の避難を手伝う光景も見られ、連携を確認でき有意義な1日としています。救命講習の修了者もいるほか、現在は毎月ミニ訓練を実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフによりバラつき、差があります。全スタッフが共通して優しい言葉かけができるよう指導します。	暴言的な寝言で起きてしまいリビングに滞留していたり、消灯の9時を過ぎてからテレビ前に皆で集まってしまうなど色々ですが、それぞれの意向をできるだけ受け入れることを旨としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる時とスタッフ本位で動いてしまっていることがありますので自己決定ができるような言葉かけを再度指導します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの都合が優先されています。利用者様の要望が聞き支援していくよう努めます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは利用者様が行ってくれます。化粧される利用者様もいます。カラーを希望される利用者様に対しては訪問美容依頼するようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はスタッフが行っています。食器洗いは利用者様にも協力をして頂き、食器拭きも5名の利用者様をお願いしています。	昼は外部業者をつかっていることもあり、夕食にはサイドにサラダと煮物を添えるよう努めるとともに、誕生日会には旬のフルーツがのったケーキを提供するなど、イベント食にも力を入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に水分量、食事量の記録の徹底。毎日、野菜の摂取は継続しています。水分の少ない方にはコーヒーや紅茶を提供し脱水にならないようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの促し、介助が必要な利用者様はスタッフが口腔ケアを行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助の必要な方は尿意があるため、本人の意思にて誘導するようにしています。クリアな利用者様に対しては羞恥心もあるため声掛けのみにしています。	排泄チェック表や癖などから声かけをして失禁を防いでいます。便の確認は重要なので使った後視認したり、本人にそっと聞いたりもしますが、「生まれたよ～」と明るく教えてくださる人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は牛乳の摂取、体操時に腹部マッサージを行い、頑固な便秘の方に対しては薬にて排便のコントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の判断は利用者様に託しています。本人のペースにて入浴ができるよう支援しています。入浴の準備も利用者様にお願いしています。	入浴は週2回が目安ですが3回の人も2名いて、入浴剤もラベンダーや森林、柚子と好みで選べるよう、希望に応じています。湯に浸かると十八番の石原裕次郎や島倉千代子を歌い出す人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	21時まではリビングを開放し利用者様のペースにて入眠ができるようにしています。時間関係なく大きい音でなければTVを見て頂くようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬担当のスタッフと施設長が薬について把握を行いスタッフで変更のできる薬については様子を見ながら内服してもらうようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベント重視、最低2回のイベントの開催と季節に応じた飾りつけを徹底しています。飾りつけも利用者様に協力して頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、外出は中止しています。ご家族の方と外出される方はいます。	戸外の散歩を希望する人は少ないものの、訓練としては必要として「コロナがやんだら皆でお出かけしたいね」と促して事業所周辺をグルッと廻るなか、中学生のサッカー練習を眺めたりと非日常を味わっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設にて行っています。購入依頼等は直接教えて下さるので、その都度、購入するようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは継続で行ってもらうようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいイメージがもてるようにトイレの貼り紙等は手作りに入り口に、おたより・イベント情報の貼り紙をしています。	声かけだけでは掃除の精度が高まらなかったため、「大掃除」と称して台所の網戸などにも手をつけはじめています。またカーテンは暗い色だったのでピンク系に交換するとともに遮断性の高いものにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えをしながら、色々な方と話ができるようにし所定の位置にこだわらず利用者様同士で会話を楽しまれたり音楽を聴かれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力、なじみのあるものを持ってきていただき、利用者様が使いやすいようにして頂いています。	箆笥、絨毯、衣紋掛け、座椅子など個性の高いものが持ち込まれ、鉢植えを置く人もいます。サイドレールのない馴染みのベッドは、管理者が安全を確かめて配置しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札や家に居るのと同じように自立できる空間になるようにしています。		